

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202762		
法人名	株式会社みくに		
事業所名	グループホームみくに松戸の園		
所在地	松戸市栄町西 5-1324		
自己評価作成日	平成27年2月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ユニットレンド株式会社		
所在地	千葉県柏市中央 2-9-16		
訪問調査日	平成27年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族様およびご本人様の意向に沿った終末期ケアの支援 ・キリスト教を土台とした、全人的ケアの提供 終末期における穏やかな最期の時の提供 ・重度化をされても外出をしたいという希望に沿った個別支援 ・庭とテラスを利用した行事を地域の方にも参加していただき楽しむこと ・多様なボランティアの方による楽しみの提供

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「自分にしてもらいたいことは、他のひとにもそのようにしなさい(聖書)を全職員が実践していることから、重度化された入居者であっても本人の意向に沿ったケアサービスを望める施設となっている。言葉による身体拘束すらもしないようにと「今月の禁句」として職員は朝礼で唱和した後、入居者にケアサービスを提供している。さらに「意見箱」から挙がった家族などからの意見・要望は、共有化の会議を開き対応するばかりでなく、玄関に貼り出されてホームの考えていることが外部に明らかにされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ミーティングなどの際に理念の共有を図っている ・ひとりひとりに深くは伝わっていない	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をミーティング時などで共有化するように努めているものの職員の一部に深くはなされていない。	全職員間で十分な共有化ができるような意思疎通を図ることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事(運動会や清掃活動)に参加しているが限定的である ・保育園児を施設に招いて交流をしている ・定期的にはあるが、日常生活レベルでは乏しい	限定的ではあるが地域の運動会・清掃活動などに参加したり、保育園児を施設に招くなど定期的に行っている。	地域との付き合いはみられるものの単発的なため、もう少し出来る範囲で日常生活レベルの域まで取り組んでいくことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議の中で、認知症の実践報告および検討を行っている ・訪問歯科による講話を通じて、入居者様の生活を見ていただいた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議での意見を参考にし、防災訓練に参加していただいている ・行事などで委員の方がボランティアとして協力していただいている	会議での意見を生かして防災訓練を実施した際に委員が参加するなど、ボランティアとしての協力がみられる。	今後ともより関連に運営推進会議を開き、そこでの意見を参考にサービスの一層の向上を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・介護相談員が定期的に来園され、入居者様の声を聞いてくれる。「外出希望・食べたい物」などを記録して、日々の介護につなげている	介護相談員の定期的な来園で、入居者の声(外出希望・食べたい物など)を汲み上げて、日々の介護に生かす関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・言葉による拘束をしないように、「今月の禁句」として朝礼で唱和している ・外部の研修に参加して学びの機会に取り組んでいる ・玄関の扉は電子鍵でロックされている	禁止対象行為などを職員間でより理解するために外部研修に参加し、さらに言葉の拘束をしないよう「今月の禁句」として朝礼で唱和してケアに臨んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・言葉での虐待がないように「今月の禁句」を唱和している ・学びが不十分である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・実際に制度を利用している入居者様がいるが、十分に理解できているとはいえない。 ・運営推進会議で意見交換する機会があるので、積極的に活用し、今後に生かすことが必要		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約に携わっている者が説明を行っているが、別のスタッフに説明ができるかといわれるとそうではない。 ・十分説明を行っているが、今後も丁寧に説明を行い、ご家族と信頼関係を築けるようすべき		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・実際に挙げたご意見をスタッフで共有する会議を開いた ・ご意見や要望は掲示させていただいている ・今後も自由にご意見を言っていただける仕組みを作りたい(意見箱など)	「意見箱」などから挙げたものをスタッフが共有するための会議を開き、ケアに反映させている。また意見・要望は玄関に掲示し外部者へ開示している。	利用者・家族が自由表記できる「意見箱」のような仕組みを、さらに設けることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・会議などの際にスタッフの意見を聞くようにしている ・施設全体の会議を開いてもいいかも知れない(全体ミーティング)	代表者や管理者は、日頃の会議においてスタッフからの意見を良く聞いて、施設運営に反映させている。	必要に応じて職員と開催する会議のみならず、施設全体の職員との会議(全体ミーティング)を実施して、施設運営に反映されることが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・コミュニケーションを積極的にとることにより、スタッフはやりがいを持っている ・勤務表作成時にそれぞれの要望を取り入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修は積極的に参加できる仕組みがあるが、内部研修は十分に実施されていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・GH協議会などでの意見交換は行っているが、ネットワーク作りには至っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前に必ず、それまでの生活の場での暮らしぶりを把握できるように関係者から情報を伺い、事前アセスメントを取ることで大まかな支援の方法をとるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前にはご家族様に不安や要望を聞き、プランに反映させるなどしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人の生活歴を考慮して必要なサービスを見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人のできることを見極めて洗濯物たたみや調理を行っている ・同じことばかりをしているので、新しいお手伝いにもチャレンジしてほしい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・看取りの方にはご本人やご家族の思いに耳を傾けるようにしている ・実際にご家族に見取りの方の整容をしていただくなど、協力をお願いしている ご家族に「一緒に介護していくこと」を伝えていく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・個別支援で、その方のなじみの場所にお連れし、ご家族に会ったりしている	入居者をその方が大切にしている馴染みの場所に同行し、親類との面談をする等といった個別支援を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・比較的、コミュニケーションができる方は各々お話をしている ・孤立しないように、席替えをしたり、一緒にお話をする機会を設けるなど、関係作りの支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・亡くなられ退所されたご家族にも、行事のお誘いなどを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の暮らしの中から、入居者様の会話や行動などから情報を得て、記録に残している ・その記録を元にケアマネがプランに反映している	日々の暮らしのケアにおける入居者との会話やその行動などから、本人の希望や意向を汲み上げ記録して、ケアマネのプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人やご家族から生活歴を伺う ・入居のときだけでなく、来園のたびにお話を伺うようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の記録、会議、申し送りから情報共有をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・アセスメントの際には居室担当者から情報を得、会議でも一人ひとりと話し合う機会を設けてる ・訪問看護との医療カンファを行っている	居室担当者制を敷きアセスメント時には担当者の情報を大切するものの、会議で参加者一人ひとりと話し合っって計画を作成。また訪問看護とは医療カンファを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・時間などの制約もあり、細かく記録をすることに限界がある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人やご家族が希望される場合、訪問マッサージを利用している ・必要に応じて、各専門有識者の意見を伺っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近所のスーパー、飲食店に入居者様をお連れしている ・ボランティアや移動パン屋などに来ていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月2回の往診が行われている ・専門医の受診を希望される入居者様には付き添い支援などを行っている	かかりつけ医が月2回の往診を実施しているが、専門医受診を希望する入居者には「付添い支援」などで応じ、適切な医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・24時間の対応で訪問看護と連携が取れている 週1回の訪問時は病状を伝え、適切な指示を受けている ・月1回の医療カンファレンスを持ち、情報共有を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は面会し、MSWと早期に退院ができるよう、相談、情報共有を行っている ・事前からの関係作りは行っていない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に重度化の際の意思確認を行っているまた、状態変化時やプランの変更時に都度意思の変更がないか確認をしている	施設では入居時に本人・家族との間で、重度化の際の意思確認を行っている。さらに入居者の状態が変化した時やプラン変更時の都度、当初の意思の変更がないか確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・応急処置の講習を行ったり、マニュアル化され、対応できるように備えているが、シュミレーションや訓練が不十分であり、すべての職員が対応できるかといえできていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・2ヶ月に1回の防災訓練を行っているが、1回1回の質や反省会も不十分である ・地域の方にも訓練に参加していただいている ・ヘルメットなどの備品もそろえている ・防災備蓄品が備えられていない	2ヶ月に1回、ヘルメットなどの備品を揃えて地域の方も参加した防災訓練を実施し、災害時の地域の協力体制を願っている。	防災備品類を早急により充実させて、伴に防災訓練の質をアップし、スムーズな避難できる方法を、全職員が身につける内容となることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・「だめ」「～させる」など不適切な言葉を使ってしまうことがある ・なじみの関係は大切だが、利用者様とスタッフという立場を忘れずに介護したい ・「今月の禁句」を掲げている 	不適切な言葉「ダメ」「～させる」を使ってしまうことがあるものの、「今月の禁句」として掲げて「その人らしい暮らしを続けるための日々の支援」に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が自己決定できるように待つ介護を心がけているが、時間に追われ、待つ時間が短くなっている 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・業務に追われ、一人ひとりの訴えやペースに合わせられないときがある ・入居者様に合わせて起床時間を考慮している 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご自身で選べる方には選んでいただいているが、介助が必要な方への支援が不十分 ・行事の際には着物や口紅を塗って頂いている ・男性は髭剃り、女性は鏡の前に立って、髪を洗っていただくなど、支援している 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日により調理を入居者様としていただく機会を作っている ・スタッフも一緒に食べているが、時間に追われ、楽しい雰囲気を作れていない 	曜日により調理を入居者として食事する機会を作っているが、スタッフと入居者が一緒になると、ややもすると時間に追われ楽しい雰囲気作りには苦勞しているようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量や水分量は記録をとっている。この状態に応じて刻み食などの形態を変えている 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の口腔ケアは行っている ・歯科医と連携し、適切な口腔ケアの指導を受けている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表を用いて、個々のパターンの把握に努めている ・上記の表が失禁を減らしているかとの評価はできていない	排泄チェック表を用い入居者一人ひとりのパターンの把握に努め、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表は失禁回数減少との評価に結び付いていないため、さらなる支援システム構築の工夫に期待される。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・下剤だけに頼らず、食物繊維の多い食事や水分摂取量に注意し、排泄時には適宜腹部マッサージを行うなどしている ・体を動かすことからのアプローチに欠けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・現状は曜日や時間によって決めてしまい、個々の希望に沿っているとはいえない ・入浴を楽しめる時間とするにはゆっくりと入っていただくために、時間的なゆとりが必要	入浴を楽しむためには時間的ゆとりが必要となるものの、曜日や時間にて決めざるを得ず、ゆったりとした希望通りの入浴までには至っていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・温度調整などの環境設定は行えている ・ご自身で行動できる方は自身の意思でお部屋で休んでいるが、日中は手持ち無沙汰で寝てしまうこともあり、安心した休憩とはいえない		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・一人ひとりに差があるが、理解に対して意識づけが必要な職員もいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・洗濯物干しや花の水やりなど楽しみとされていることを手伝っている ・散歩や外出などで気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天候に左右されるが散歩などは日々行っている ・個別に外食などお連れしているが、個別支援になってしまうので頻繁にはできていない	天候が許す限り入居者に毎日の散歩などを実施している。一方で個別に外食するのは「個別支援」となるので、頻繁には対応していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個人で金銭を管理されている方は少ない ・外出などの際には個人のお小遣いとして使っていただくようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話をかけたいという希望に添えている場合と添えない場合はある ・入居者様の近況は介護便りとしてご家族に毎月ご報告している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関やリビングは季節が感じられるように、花を生けている ・リビングや居室には入居者様の作品などを展示している ・トイレや廊下は暖房がなく寒い	玄関やリビングには、季節が感じられるように花が生けられ、居心地の良い共有空間作りを行っている。またリビングや居室には入居者の作品などが展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・入居者様各々居心地のいい場所が決まっていて、くつろがれている ・廊下にソファを置くなどひとりになれる空間を作る工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居の際には使い慣れたものや馴染みの大切なものを持ってきていただけるよう協力をお願いしている ・好きなアーティストや家族の写真を貼っていただいている ・雑然とダンボールが置いてあるので工夫が必要	多くの入居者は入居の際に、使い慣れたものや馴染みの大切なものを持ってきている。ただし、好きなアーティストや家族の写真を綺麗に貼っている方がいる一方で、雑然とダンボールを置いてあるだけの方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・入居者様が持ちやすいように軽いカップを使ったり、わかりやすいように居室の前に表札を作ったり工夫している		